

因島高校 海外語学研修(ホームステイ) オーストラリア視察訪問

因島高校PTAでは、2月2日より、桶東校長、冠教諭、村上PTA会長始めとする総勢9名の「因島高校海外研修事前視察団」による、4泊5日の日程にてオーストラリア海外語学研修(ホームステイ)の視察をおこないました。(自費参加)



発行 会報
支長 竹中啓修
会字 竹中啓修
題字 竹中啓修

二月二日、広島空港から出発し、シンガポール経由、翌朝、オーストラリア、プリズベン空港着。フォーサイズ氏、出迎え。

プリズベン市内で、フリーマーケットや商店にて美しい英語力で散策買物を体験したあと、車でカプーチヤ市ブライビー島へ入る。ブライビー島は、人口約二万で、豪本土から一本の橋で結ばれています。気候温暖で、島の大半は国立公園になっており、高校は島にひとつと、因島と大変似通ったところ。これは、われわれが語学研修先を選定するにあたって、因島と似た地域を希望し、探していたものでした。

翌四日、州立海洋センターを訪問。カニ、えび、タイなどの魚を養殖研究してました。オーストラリアは肉食中心ですが、健康や栄養バランスのために、魚が見直されているそうです。



州立海洋センター

今回の視察は、PTA海外語学研修に多くの実績がある、エドベンチャーエンタープライズ社フォーサイズ氏と連絡しながら研究準備をすすめているものです。同氏は、すでに取り組み実施している高校(庄原格致高校高野山分校、東城高校、日影館高校、いずれも因島高校PTAが視察済み)をはじめ、広島県、島根県など、各地高校や、語学学校研修生入学の御世話をしており、今回の視察で、オーストラリアにおける同氏の人脈の広さや経験の豊富さなど、痛感しました。



ブライビー島人口の大看板

午後から、ブライビー島高校を訪問。校長先生や、生徒会長が玄関にて出迎え。生徒会長は、優等生で、褒賞のネクタイピンをいっぱいつけていました。生徒は、教科書を毎年学校から借りるシステムになっており、図書館には教科書が整然と保管されていました。木



ブライビー高を訪問

工細工、美術教室、コンピュータ教室、理科実験室など巡回、教室では、生徒が喜んで歓迎してくれました。六年間の中高一貫教育で、約一〇〇名の生徒ですが、高校は義務教育でないため、二〇%くらいが、卒業までにリタイア。高校三年になると毎週金曜日、進学組は学校で授業があるが、就職組は企業に出て勤労体験をするそうです。進んだシステムと感じました。

必修外国語は、フランス、ドイツ、中国、インドネシア、日本語の中から高校毎に決定されます。ホームステイ先の家庭は、学校と警察が共同審査するので安心です。夕食時には、ブライビー高校長と、カプーチヤ市長をお迎えし、校長、市長に、因島名物「はっさくゼリー」をプレゼント。



市長、校長を迎えて夕食



桶東校長とブライビー高校校長

翌五日、ホームステイの住宅地などを見学。その後、カプーチヤ市役所訪問。市議会開催中につき、傍聴席横にいったん座って議事を傍聴。十時半、議事が休憩となり、ジョイリッシュマン市長がわれわれを紹介してくださり、歓迎のことばに続いて、一人ずつに握手しながら記念品をいただく。市長を囲んで、オーストラリア国旗の前にて記念撮影。その後、三十分ほどコヒータム。市長、市幹部、市議会議員、傍聴者に交じり、我々も談笑する。(言葉が十分しゃべれないので笑っているだけ)。



カプーチヤ市を表敬訪問(中央は市長)

今回の因島高校の海外研修が縁で、本年一月、カプーチヤ市ジョイリッシュマン市長から村上和弘因島市長に対し、「日豪の交流を深めましょう。」との親書が届けられました。因島市長から預かった返書を渡したところ、大変喜んでくださいました。その後、空港へ。シンガポール経由で、翌朝広島へ帰国。あわただしい日程であったが、オーストラリアの人々の

因島教育の課題と今後の取り組み

今後のPTAに期待するもの



因島市立土生小学校校長 村田 積 穂

一 はじめに

因島高校においては「社会で許されないことは、学校でも許されない」という信念のもと、生徒指導の充実と教科学力の向上、すなわち生徒一人一人の進路にかなうような取り組みが進められ、これにPTAからの強力な支援によって着々と成果をあげられていることに對しまして、深甚より敬意を表します。小中学校においてもPTA保護者の協力を得ながら、期待に応えていく筋道を明らかにしていきたいと思えます。

二 文部省(当時)是正指導(一領域十三項目)からみなさんご存知のように、広島県は平成十年、当時の文部省より、国旗国歌道徳等の教育内容面で七項目、職員会議を校長の補助機関とする、また提案文書は校長の意を受けたものにする等、学校管理運営面で六項目の是正を受け、学校長を中心とした学校体制の確立に向け、鋭意努力を重ねているところです。

学校長を中心とした学校体制の確立がなげ望まれるかと申しますと、校長は学校の責任者であり、あらゆる人に、あらゆる場で説明責任があるからです。そして学校外や校長がいなくて学校がすることを決めてしまうシステムがあつては、PTAの皆様方をはじめ外部の方に、学校の責任者が説明責任、結果責任を負えないということになるからです。

こうした流れの中で、今年度市内の小中学校も卒業証書を元号へ統一し、来年からは国旗を常掲することになりました。

三 義務教育改革へ

是正とともに、私たちは、広島県教育委員会の指導のもと、「信頼される学校」をつくる。「確かな学力」をつくる。「豊かな心」をはぐくむという三つの基本方針に基づき義務教育を進めてまいります。

「信頼される学校」をつくる

「信頼される学校」をつくるためには、校長を中心として一体となつて組織として機能する学校づくりをすること、教職員の指導力の向上のため研修を充実させること、中立(法 規則の遵守)公開(説明責任)を原則にした「開かれた学校づくり」をめざし、

情報発信することが考えられます。こうしたことをふまえ、本校においても二月に公開研究会をしますが、現在全校一丸となつて努力しているところです。

次に、「確かな学力」をつけることですが、まず学力とは「学」が意欲に裏打ちされた判断力、表現力、技能、知識を含めてとらえ、将来の生活に関する課題を解決し、適応する能力を重視します。そして、これには何よりも教科学力が土台になると考えます。このことに対しましては、高校のみならず小中学校でも、本市の児童生徒の現状を深刻に受け止め、次の通り邁進する所存です。

今年度から小学二年以上に学力診断テストを実施し、学校や一人一人の児童生徒の課題を明らかにし、その解決に向けた取り組みを進めているところですが、来年度においては、どこが伸び、どこが欠けているか明らかにしていきます。また、あわせて教職員の指導力実践力向上のため、授業研究を進めていくこと、また、ステップ学習等、子ども達に具体的な目標を持たせて励ましていきたいと考えています。そして、こうした学校での取り組みは家庭で子ども自身が学習習慣、態度を育成していくこと、さらに基本的な生活習慣を育てていくこと、家庭の教育力の向上が土台にあると考えます。

最後に、「豊かな心」をはぐくむことについてですが、学校では、道徳教育の充実とともに今年度より本格的に実施される「総合的な学習の時間」等での体験的活動をはじめ子ども達の理解をもとにした生徒指導、とりわけ幼少年期におけるしつけや言葉かけを大切にしていきたいと思えます。こうしたときにこれまでの

行きすぎた「自由子育て」から脱し、子は親や学校のしつけや決まりに従う等の関係をはっきりさせていくこと、その上で、悪いことをしたら叱り、良いことをしたら誉めるということを毅然と行うことが大切です。

本校においても、頭髪等行きすぎた「自由」な状況があったわけですが、校則を明確にして子どもや保護者に指導、理解を求めていったところかなり改善されてきています。

四 終わりに

私たちは、子ども達の崩れはおとなの子育ての責任と捕らえ、そのことが学習規律や学力と不可分であることに確信を持つてきました。子どもも大人もこの厳しい社会で大きなストレスを感じつつ暮らしています。

「人の体力は個人差があり、自分の体力を超える荷物は抱えられないように、人には心力(しんりょく)心の体力)があり、自分の心力を越える荷物(ストレス)は抱えられない。」(心理療養士 永川邦久氏)といわれます。子ども達の「気になる、困った、心配、問題行動は、子どもからの招待状(サイン)」ととらえ、目をかけ、気をかけ声をかけてサポートしてやっってください。子ども達は、いつも心から自分のことを気にかけてくれる人がいることを実感できるだけで、しんどい思いから助けられるのです。こうしてみると、実は子育ては自分育てであり、そうした育て合い(愛)が因島教育を支える柱となつていくと思えるからです。どうか学校とPTAがともに一層育て合い(愛)ができるようお願いして私の話を終えたいと思えます。(昨年十一月の「市内小中高合同PTA役員研修会」における講演です。)

新校舎見学会に 多数の市民が参加

二月十九日(火)新校舎、新体育館の完成見学会が開催されました。午前と午後あわせて、市長、議長、教育長をはじめ、市関係者、教育関係者、市議員、各種団体、小中高の保護者、卒業生等、二〇〇名を越す参加者がありました。

PTAがアンケート実施

PTAは、当日の参加者にアンケートを実施し、一二人の回答を得たこととす。みなさんのご意見を参考に、先生方と共に今後の学校づくりに役立てていただきたいとす。

支援する会に関する回答の中に、会報を読んでくださっている方が多くおられるとわかり、大変ありがたく思います。みなさんの和が広がり、高校を支えてくださっていることを実感すると共に、今後も期待に応える活動をしていきたいと考えています。

新校舎を 見学した感想は

「すばらしい。」「設備が充実している。」「大学のキャンパスのようだ。」「最高の環境だ。」「中庭があって、とてもアカデミックだ。」「など、ほぼ全員が賞賛している。

「広いので、生徒に目が行き届かないのではないが。」「いつまでもきれいな校舎でいて欲しい。」「教室が遠くて移動が大変だろ。」「せっかくの施設をいっぱい活用してほしい。」「など心配の声もあった。

「地元の公の教育施設として、有効活用する事を模索したい。」「時々中学の授業に利用させて欲しい。」「プラネタリウム展望台等を、小中学生に開放してほしい。」「中学など交流をはかり、因島高校のイメージアップにつなげてほしい。」「など、最新鋭の施設を活用し、地域の教育の拠点となるよう期待したい。

続いて、竹中啓修因島高校を支援する会会長、村上正則PTA会長が、「校長や先生方に協力して進めたいので、今後ともみなさんのご支援をお願いします。」と挨拶しました。その後、一〇人くらいの小グループに分かれて、先生方が屋上のプラネタリウムや図書室など、校内を説明して回りました。



「何十年前に戦争の最中に学校生活をおくった者としてはこのような立派な校舎で学べる生徒をうらやましく思う。しっかりと使って欲しい。」「という声もあり、今の生徒に聞かせたいものだ。

因島高校の感想や期待

規律マナーについては、「守られてない。」という意見が多く、「もっと、PTA(親)がしっかりとすべきだ。」「髪、制服、化粧等、外見が気になる。」「生徒を甘やかすすぎている。」

学習態度、意欲については「学力アップしてほしい。」「やる気のある子が満足できる教育環境を望む。」「生徒のやる気を起こさせて欲しい。」「学力保障を」「進学率の向上を」「勉強を中心とした学校生活をおくれるよう宿題をもっとだしてほしい。」など。

クラブ活動の「充実をはか

学習体制着々と進む

春休み サテライン講座開始

サテライン講座が、春休みに実施されました。これは、「代々木ゼミナール」予備校東京校の授業が衛星放送を使って同時に因島高校で受講できるもので、昨年春「支援する会」の支援により開設されました。英語、数学、国語の三教科行われました。

読んだ感想は

「少しでも、学校の様子が分かるので、続けて欲しい。」「毎月一回、発行して欲しい。」「会談の内容が興味深い。」「PTAの積極的な働きかけを感じます。」「高校をアピールするのに良い方法だと思ふ。」「と、編集者としては、うれしい意見もあった。

そして、「もう少し、詳しく書いて欲しい。」「市民として、何か協力できることはないかと思ふ。」「保護者として出来ることをしなければならぬと思ふ。」「保護者の力をもっと利用して欲しい。」「地域社会を含めた運動に学校にしてください。」「進学(親)がしっかりとすべきだ。」「髪、制服、化粧等、外見が気になる。」「生徒を甘やかすすぎている。」

また、広く意見を載せることの重要さから、「現場の先生方の意見も載せて欲しい。」「PTAの会報になりがちなので、広く意見を求めて欲しい。」「将来の方向性を示す意味で、中学生の意見も記事にしたら、など、あつて、「リアルすぎて眉をひそめる記事がある。」「よいことばかりでなく、キツイことも書いて欲しい。」「など、さまざまな意見がある。

「因島高校を支援する会」の会報を読んだことがありませんか。

ある(七十七人)
ない(十四人)

春休み学習合宿実施

因島高校では、新三年生を対象に春休みの学習合宿を、三月二十六日から三日間、県立福山少年自然の家で行ないました。学習合宿は、昨年実施して、「勉強の習慣が身に付いた。」等、好評であること

土曜日にスーパーサタデー

今年度から週五日制になり、毎週土曜が休校になりました。保護者から、対策の要望もあり、PTAでは先生方と協議して、土曜日に「サテライン講座」を開講すべく、計画中です。

代々木ゼミ・サテライン講座を受講して

総合学科第一期卒業生 村上裕紀

私は、今年志望校への入学を果たし、因島高校を卒業しました。実際、その志望大学への入学は相当困難な状況でした。しかし、ある受験方法により合格し、自分でも驚いています。それはAO入試と、小論文により合否を判定するということでした。あるテーマについて自分の「考え」や「意見」を述べるもので、一見簡単なように聞こえるかもしれませんが、実はこれが難しいのです。ただ単に「自分はこう考える」と述べるのではなく、理論的に順序良く自分の考えをまとめる事が求められるのです。それはどのような勉強をすべきかという点、私の場合は放課後に行なわれている「代々木ゼミ・サテライン講座」を受講したことでした。何か受験に対して行動を起こさねばと言っ思いもあり、とりあえず受講しました。当初は、「受けても効果があるのか」と疑問もありました。そのまま何の実感もなく月に一度、合計六回受講しました。その時は、「実力がついた」と言っ実感はありませんでした。ですが、その

後、授業などで行なわれる論文などでは、たいした躊躇もなく論文が書けるようになったのです。そして受験シーズンを迎え、各大学ではAO入試が始められ、各大学により違ったテーマが様々な形で出題されます。私はサテライン講座を受けていたこともあり、そこで培った実力を発揮することができ、二校合格することができました。

在校生の皆さんも、放課後に残って受けるのは面倒くさいと思われかもしれませんが、「小論文サテライン」を受ければ、就職・進学の受験の時やそれ以外の論文などを作成する時等に役立ち、将来のためにもなり、強い武器になると思います。ですから受けて損はないと思います。受験の時には他者より打撃が多いほうが有利です。「小論文サテライン講座」はそれにつけていただきたいと思います。

最後に、このシステムを導入してくださった先生方や関係者の皆様へ感謝しつつ、終わりにさせていただきます。ありがとうございました。ありがとうございます。

区長連合会に協力お願い

二月十二日、因島市区長連合会が、市民会館会議室にて開催されましたが、因島高校から、桶東校長と村上PTA会長ほか役員が、出席しました。

そこで因島高校は、現在、桶東校長を中心に先生方が、生徒指導、学力向上に精力的に取り組んでおり、また、PTAも、魅力ある高校に向けて協力体制を取っています。さらに、地域から信頼される高校になるために、区長会さ



市民の 投書箱

が、みなさんのお宅ではどうですか。

編集後記

二月十九日、因島高校土生校舎が閉校した。大正九年、土生町立女子実業補習学校が設立され、今日まで、幾多の変遷を経て来た。この八〇年の歴史を、重井の新社舎に引き継いでいこう。(K)

最高級の立派な施設を活かして、市民に開放すれば、高校が文化の中心、発信基地になれるかもしれない。そうすれば、高校生のプライドも高まり、自然と生活態度も改善されるのではなからうか。(M)

三月一日、出来ればかりの真新しい体育館で卒業式。でも、卒業生たちは、一年は土生、二年は、旧重井校舎(取壊し済み)、三年はプレハブ。思い出す学び舎は、どこだろう。卒業式に校歌を歌わぬものがほとんどだった。校歌を口ずさみながら、愛着が湧くというが、校歌を歌えぬのも無理ないか。しかし、環境の悪い中、ご苦労様であった。(K)